第三号 保存用

光陵だより

四五・二・二四

校舎建設について

PTA会長 斎田幸忠

寒さのぶりかえり、皆様にはその後いかがお過ごしですか、おうかがい申し上げます。

皆様に大変ご心配を掛けておりました校舎建設の件ですが、前回の「光陵だより」でお知らせしました通り、横浜国大より農学教室等の用途廃止の手続きが文部省に出されておりましたが、横浜国大の粉争がおさまるまでは、文部省としても書類は一切進めないという大変厳しい態度でしたので、校長ねらびに足立建設仮進委員長等と各方面から色々と手を尽くし、問題解決に努力してまいりましたところ、幸いにも昨年十二月十九日横浜国大の紛争も一応おさまり、授業が再開されたのを契機に、懸案の書類も進みはじめ、各方面に働きかけました結果、短期日のうちに大蔵省関東財務局に書類が通されました。関東財務局に移った書類は、普通ですと六ケ月先の国有財産審議会にかけられるのですが、県知事の力で特別に三月二日に開かれる審議会に割り込ませてもらい、そこで審議されることとなりました。

昨年十二月十七日の日本経済新聞にも報ぜられ、既にご存知の方もいらっしゃると思いますが、大蔵省と県教委との間で、用途廃止になった土地は光陵高校建設用地にするという内々の話し合いができておりますので、国有財産審議会で反対される心配は全くありません。二月六日県教委へ行き、担当者に会い、建築計画について種々たずねましたところ、現在校舎の最終的設計も順調に進み、審議会の認可がおり次第、建築業者の選定（入札）直ちに着工というオ合になっております。

先日県知事にまたまたお会いする機会がありましたので、建築の仮進に関しお願いをしましたところ、県知事としても、長い間父兄の皆様にご迷惑をお掛けしたお詫びの意味で、工期の短縮その他についても格別の配慮をすると申しておりましたので、本年中には何とか完成の運びとなるのではないかと思われます。私としても、年内完成をめざして、建設仮進委員の方々と力をあわせて、努力を続けてまいる所存でございます。

学校近況

校長 原田賢三

斎田会長の報告通り、建築はいよいよ着工の見通しがつきました。山手分校として発足以来、ほんとうに長い間迷り道をし、ご心配をかけました。この四年間の経過を「光陵」第二号（三月発行）に書きますのでご覧ください。

大学紛争が下火になり高校に問題が移った感がありますが、昨年来卒業式問題等で紛争を続けていた東京都の某高校全共闘活動家生徒三十数名が、三百数等で本の万引をして警察で補導されたと二、三日前の新聞に報ぜられました。紛争の結果、彼等の要求通り定期試験が廃止され、目標を失って勉強に怠がはいらず、遊ぶための資金かせぎのためだったとか。また、この学校のことではありませんが、受験体制に反対して闘争した生徒が、自分たちが望んだ形式の授業に出席せずに予備校に通っているとの話も耳にしています。制度に問題があるのか、生徒の心の中に問題があるのか。

スポーツでも趣味でも面白くなるまでにはある程度の熟練が必要です。熟練するためには苦しい試練をくぐり抜けねばならない。「ある職業について三度やめようと思わなければほんものにならない」という言葉があります。生徒が授業が面白くないという前に面白くなるまで苦しんでみたかということを始業式に話しました。

大学入試制度の問題は長い間の懸案になっています。先日の新聞紙上に東大の試案が発表されました。一歩前進の案として評価されると思います。高校の学習が小手先では役に立ちません。（従来でもその通りですが、今後はいっそうその心構えが必要になります。）ほんとうに自分のものとして理解し消化しなければ役に立ちません。結局ひとりひとりの心が問題です。そしてすべての人の心の弱さを思うとき、強制ということの必要を考えざるを得ません。

教育は納得だけのものではなく、強制と強制に耐える強さが条件になると思います。

二月十日にはじめて校内マラソン大会を本牧市民公園で行ないました。寒い日でしたがよく晴れ、まさにマラソン日和で、参加した生徒は、足のけいれんと小気分の悪くなった若少数のほかは殆んど全員が、男子約一万米女子約五千米を完走しました。それぞれの体力に応じ精一杯走る姿はまことにたのもしいものです。二年生の欠席が一年生に比較して多かったのは残念でした。成績は男子が一位から十三位まで一年生が独占したのは意外でした。二年生男子諸君の奮起を望みたいところです。女子は一、二位が一年生、二位から十一位までは二年生でした。佐藤先生が男子と一緒に参加し、終始上位グループに入っていましたが、六回目で腹痛を起こし、やや落ちたものの見事に完走して、三十位でゴールインしたのは立派でした。

三年歓送会報告

ある生徒より

春の陽もうらうらかな二月六日、一、二年が三年を送る"歓送会"が開かれました。場所は関内勤労会館第一ホール。昨年の様子を知らない我々一年生は、講堂のない光陵のために造られたようね、大きすぎず小さすぎず、その上立派なこのホールに驚きました。

一時十五分、校長先生のいつにねく短いお話から幕があき、司会は生徒会長宮田氏と行部女史で進行します。

第一部――光陵に埋もれた音楽家たちの才能を、再認識いたしました。ピアノ、エレクトーン、バイオリンの演奏もありました。皆さんも聞きほれていたようね……。